

# 環境負荷の低減・気候変動への対応



ニチレイグループでは、グループ環境方針を定め、地球温暖化防止、持続可能な資源循環の推進、自然との共生を3つの重点課題としています。

当社グループが行う事業活動は、サプライチェーン上の様々な関係者により成り立っており、食品工場や低温物流センターなど、自らの事業所だけでなく、お客様やお取引先の活動も含めた環境への取り組みに広く関わっていく必要があります。

また、食のインフラを支える当社グループの事業活動は、原材料の調達において自然生態系に依存しており、気候変動の影響を大きく受けることを認識しており、お取引先と連携しながら以下の活動に取り組んでいきます。

- ・食品製造におけるエネルギーの効率的な利用
- ・低温保管・輸送における効率性の向上を通じた温室効果ガス排出量の削減
- ・再生可能エネルギーの利用促進を通じた、サプライチェーン全体が与える気候変動への影響の低減

- ニチレイグループ環境方針 <https://www.nichirei.co.jp/csr/environment/concept.html>
- ニチレイグループ生物多様性方針
- 環境マネジメント体制 <https://www.nichirei.co.jp/csr/environment/system.html>

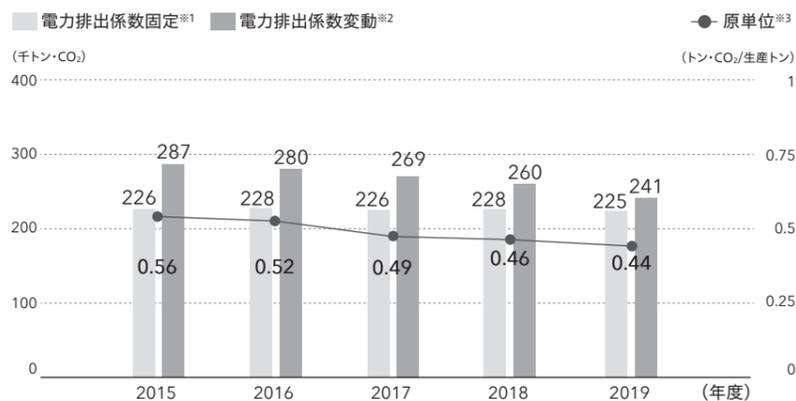
## グループ長期環境目標と低炭素政策に向けた取り組み

グループ重要事項(マテリアリティ)(15ページ)の1つとして取り組むとともに、グループ長期環境目標としても低炭素政策を実行します。2021年~2030年の10年間で下記3つの施策に積極的に取り組んでいきます。

ニチレイグループは、TCFD提言へ賛同し、以下の低炭素政策を推進する

低炭素政策の柱	概要	対象範囲
1 長期CO <sub>2</sub> 排出量削減目標	・2030年に国内・Scope1・2におけるCO <sub>2</sub> 排出量を30%削減(2015年度比)	国内 Scope1・2
2 海外におけるCO <sub>2</sub> 排出量削減に向けた対応策の推進	・海外事業所におけるデータ収集等の取り組みを推進 ・海外におけるCO <sub>2</sub> 排出削減に向けた対応策を検討・推進	海外 Scope1・2
3 Scope3におけるCO <sub>2</sub> 排出量削減に向けた対応策の推進	・Scope3におけるデータ収集等の取り組みを推進 ・Scope3におけるCO <sub>2</sub> 排出削減に向けた対応策を検討・推進	Scope3

## ニチレイグループCO<sub>2</sub>排出量の推移



※1 電力排出係数固定:電気事業連合会公表2009年度使用端CO<sub>2</sub>排出原単位0.412[t-CO<sub>2</sub>/MWh]を全国で共通使用  
 ※2 電力排出係数変動:各事業所で使用する年度における電力事業者の電力換算係数を使用  
 ※3 電力排出原単位の対象範囲はニチレイフーズ(国内自営工場および関連工場)および、ニチレイフレッシュ(国内関連工場)のうち以下を除く  
 ニチレイフーズ:(株)ニチレイ・アイス  
 ニチレイフレッシュ:(株)ニチレイフレッシュファーム、(株)フレッシュチキン軽米、(株)フレッシュミート佐久平

## 再生可能エネルギーの利用促進

### ■ グリーン電力証書の導入

再生可能エネルギーの活用を進めているニチレイグループでは、工場や冷蔵倉庫などでの太陽光発電設備の導入に加え、「グリーン電力証書」を購入しています。2007年より年間100万kWhのバイオマス発電による証書を購入してきました。

また、ニチレイフーズでは、2020年3月より年間1,000万kWhのグリーン電力証書を購入し、「本格炒め炒飯。」の製造ラインで使用する電力相当分をまかなっています。



※「グリーン電力証書システム」:自然エネルギーによって発電された電力が持つCO<sub>2</sub>排出削減などの環境付加価値を、「グリーン電力証書」という形で具体化し取引することで、発電所から遠い場所でも自然エネルギーによる電力を使用(オフセット)したとみなす仕組み。

### ■ 太陽光発電

ニチレイグループは各事業会社で太陽光発電設備を設置しています。2019年度の発電量は206万8千kWhとなり、CO<sub>2</sub>排出量を1,003トン削減しました。

事業所	設置設備
ニチレイフーズ	・船橋工場 ・ニチレイ・アイス
ニチレイロジグループ	・杉戸物流センター ・松江物流センター ・釧路物流センター ・咲洲物流センター ・(株)キョクレイ 大黒物流センター
ニチレイバイオサイエンス	・グローバルイノベーションセンター

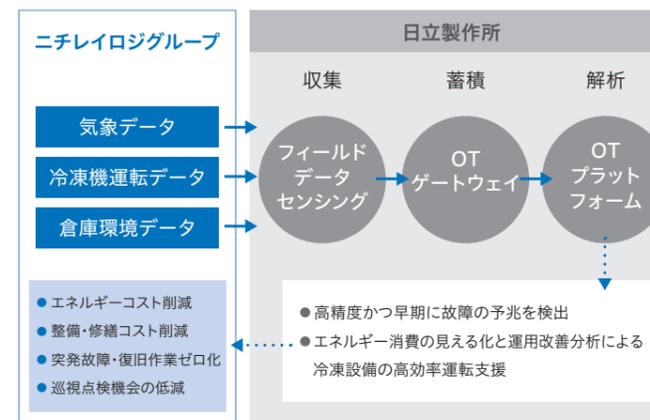
## フロンへの対応

### ■ 自然冷媒の活用と冷媒漏れ防止による効率運転

ニチレイロジグループでは、冷蔵倉庫の新設・増設には基本的に自然冷媒を選択しており、既存設備についてもフロン冷凍設備から自然冷媒冷凍設備への更新を推進しています。また、冷凍機の冷媒漏洩削減のため、2013年度から、従来の10倍以上の精度を持つ高感度の検知器を導入する等、全国の物流センターで冷媒漏洩点検の強化を行っています。

2018年9月からは(株)日立製作所と共同で、船橋物流センターにおいて、先端IoT技術を活用し、冷凍設備の故障予兆診断と、設備運転・メンテナンスの効率化に向けた共同実証を行っています。エネルギー消費を可視化し、運用改善の分析をすることで、冷蔵設備の高効率運転を行います。

### 共同実証の概念図



### ■ 第22回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞における「審査委員会特別賞」受賞

ニチレイロジグループにおいてエンジニアリング事業を担う株式会社ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリング(代表取締役社長:井藤勉)は、日刊工業新聞社日刊工業産業研究所が主催する第22回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞において「審査委員会特別賞」を受賞しました。

今回の受賞は、冷媒漏れ予兆診断システムを活用したフロン漏洩削減によるCO<sub>2</sub>排出抑制の取り組みについて評価されたもので、2019年9月12日に表彰を受けました。今後も、冷凍設備の保守管理および修繕計画提案といった品質管理、省エネ提案およびローコスト購買によるコスト削減などのトータルサポートサービスの提供により顧客からの要望に応えながら、更なる環境負荷低減を図ります。

